



苦境は飛躍の まえぶれ

青々とした山野は、みなぎる生命力の表れです。今年は、美しい五月の若葉青葉が遠くかすんで見えます。

山々の木々の緑は、人を旅へと誘ってくれると言った歌人がいます。

あらたふと 青葉若葉の日の光 (松尾芭蕉)

芭蕉が江戸の墨田川ほとりの庵を出て「奥の細道」の旅に出たのは、5月中旬です。まさしく青葉若葉が目染みる今頃です。

ところが、今年は大型連休であっても旅をするのも自粛しなければならぬ状況です。新型コロナウイルスの影響は、観光業や飲食業のみならず、全ての産業や家庭生活にも大きな影響を与えています。指宿では旅行者の姿がめっきり減り、観光地も閑古鳥が鳴く有様です。

「不要不急の外出とはどのような場合をいうのですか」「隣の人との距離は何メートル開けたらいいのですか」な

どの問い合わせもあるぐらいですから、今年の青葉若葉の風景は大きく変わっています。「新型コロナウイルス感染者が指宿にいる」「病院に入院している患者がいる」「行政は事実を隠しているのではないか」「医療崩壊につながりかねない事態になっている」などの事実に基づかない情報も拡散されました。

県指宿保健所の対応に関する問題が新聞で報道されるや、市役所職員への批判がインターネット上で拡散されました。マスクやトイレットペーパーの買い占めも大きな社会問題になりました。

市では、新型コロナウイルス対策本部を設置し、いち早く緊急事態に備えました。会議はこれまで10数回に及び、会議の内容はホームページで広く公開しています。今回の緊急事態宣言は、私たちが当たり前前と思っている生活が、いかに脆く世にまねなことを考えるきっかけになりました。

た。

今後も冷静に事実に基づいた判断が求められます。

「冷に耐え、苦に耐え、煩に耐え、閑に耐え、激せず、騒がず、競わず、随わず、以って大事をなすべし」王陽明の言葉です。

苦境の時こそ、その人の真価が問われます。

苦境の時だからこそ、人の温かさ優しさがよく分かります。

苦境の時があるからこそ、乗り越える感動も得られます。苦境は、飛躍の前触れです。苦境の中から智慧も生まれ、感謝の心も育ちます。

「生きるという事はそういうものなのか」青葉若葉の日の光の中で思う昨今です。苦しさの中でも確実に季節は巡ります。



指宿市長
豊留悦男